

第3回 標準委員会 発電炉専門部会議事録

1. 日時 平成12年9月19日(火) 13:30~16:30

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 成合(部会長)、阿部(副部会長)、竹田(幹事)、木下、久保、榊原、田中、平野、藤田、古田、古屋、吉田(12名)

(代理出席委員) 安藤(小島代理)、藤本(澤田代理)、森田(津久井代理)、森本(堀川代理)、姉川(三島代理)(5名)

(欠席委員) 天野、山下(2名)

(常時参加者) 矢作(1名)

(傍聴者) 古谷(1名)

(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

PTC3-1 第2回 標準委員会 発電炉専門部会議事録(案)

PTC3-2 人事について(案)

PTC3-3 標準委員会の活動状況

PTC3-4 標準委員会 専門部会運営通則

PTC3-5 標準委員会 標準作成手引き

PTC3-6 標準原案審査のガイドライン

PTC3-7 発電炉専門部会 分科会活動状況

PTC3-8 停止時PSA実施手順書作成に関する中間報告

PTC3-9 発電炉専門部会の活動方針(案)

参考資料

PTC3-参考1 原子力学会標準活動関係の外部発表

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員19名中代理委員を含めて17名の委員が出席しており、本会議が成立していることが報告された。

(1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(PTC3-1)。

(2) 人事について

事務局よりPTC3-2により、分科会での新委員選任の報告があり、加藤氏(確率論的安全評価分科会)、重宗氏(炉心・燃料分科会)を新委員として承認した。また、中澤委員(発電炉専門部会)の退任が報告された。関連して、新委員は上部会議の承認が必要なので実際に委員になるまでのリードタイムが長くなるが、書面会議による承認というような形でタイムリーな方式がとれないか、との議論があった。

(3) 発電炉専門部会活動方針(案)の審議

事務局よりPTC3-9により、発電炉専門部会活動方針(案)について、変更箇所について説明を行った。本件について十分な審議が行われたことを確認の後、当面の活動方針として承認することに対し、挙手による決議が行われ全員一致で承認された。以下のような審議が行われた。

- ・今後、体系化を目指した検討を進める中でいろいろなものが出てくるのが望ましい。検討に当たり原子力安全委員会等広く外部の専門家の意見を聞いていく必要がある。
- ・次回の会議に標準案件として「安全解析のための風洞実験の実施手法」とこれに関わる分科会の設置を提案したい。
- ・分科会には、海外も含め広く外部の専門家にも入ってもらいたいが、一方、委員は原則原子力学会員ということなので、少なくとも委員の半数以上は学会員であることが必要だろう。
- ・本方針に記載の「航空機事故確率評価手法」については、専門部会としての方向性を示しており、分科会で検討して必要なら改めて手がけていくと解釈すれば良い。
- ・分科会の性格付け、取り組むべき範囲については、不明確な点があり、各分科会で異なっている。次のテーマに進むときは分科会の構成等見直しが必要。

(4) 全体状況報告

a) 標準委員会報告

事務局よりPTC3-3により、標準委員会全体の活動状況報告を行った。

b) 専門部会運営通則、標準作成手引き、標準原案審査のガイドライン

事務局よりPTC3-4、-5、-6により、標準委員会での決議投票により制定された専門部会運営通則、及び第6回標準委員会で承認された標準作成手引き、標準原案審査のガイドラインの説明を行った。第9条[審議および決議]について、第2項の(3)は、決議の手段によって重要度が左右されるような書き方になっているが、重要度により手段や決議条件が変わるという書き方にした方が良いとの意見が出され、具体案を基に検討し、適切な時期に見直すこととし

た。

(5) 分科会報告

平野委員，姉川代理委員よりPTC3-7, -8により、それぞれの分科会の活動状況説明を行った。両分科会とも次回の専門部会で標準の骨子を紹介することとした。以下のような審議が行われた。

・国内外の停止時P S Aに関連する手順書類の状況

- ・データの公開に関して、学会としてどこまで公開データがあれば十分な説明ができるかで決まる。判断の根拠となる基本的情報は公開の必要がある。
- ・専門家の中でY E SかN Oかの議論になった時、最終的にエンジニアリングジャッジが必要で、その主な根拠となったものについては公開の必要がある。
 - ・実験結果の妥当性を判断するための実験条件についての公開範囲
- ・規格基準の作成の際に用いたモデルの基本的考え方とか、解析と実験結果の相互比較ができる基本的なグラフを公開して貰えば、学会としてモデルやコードの妥当性は判断できるので、相関式の係数やソースコードまで公開を要求しなくても良いのではないか。

6. 次回開催予定

第4回専門部会を、12月6日（水）午後2時より、学会会議室で開催することとした。

以上